



●大鉄傘と日本初のステンレスネット

バックネット裏をおおうように1,600㎡の大鉄傘がニョッキリ。もともと西宮球場には立派な大鉄傘があったのですが、昭和18年、金属回収令により供出されてそのままになっていました。急に雨が降り出した時など、雨やどりに大変便利ですね。

また、その高さ31mの鉄傘からつり下げられた巨大なバックネットは、日本初のステンレス製(つや消し)。網目も大きく、丈夫で、ゲームがとても見やすくなりました。外周フェンスも同じステンレス製です。

●食堂、売店も新しく

見やすく、美しい人工芝グラウンドに合わせて、他のいろんな設備もすべて化粧直しをしました。食堂は4ヶ所を改装、空調による冷暖房完備で、快適な食事を楽しんで頂けます。また、売店も従来の屋台のようなものではなく、立派なものを27ヶ所に新設、外野には体の不自由な方のトイレも設けました。そのほか電気、音響、空調、水道設備にいたるまで西宮球場始まって以来の大改造。V3日本一・阪急ブレーブスにふさわしい豪華なスタジアムの誕生です。

●ひと味ちがう改良型

人工芝野球では何かがおこる…といわれるように、人工芝の上ではハブニングが話題となっています。人工芝ヒット。エンタイトル・ツーベース。などはその例です。

そこで西宮球場では、ハブニングではなく、本場の野球の面白さを楽しんでもらうと種々の改良を加えました。まず第一に内野部分は従来の土のまま残しました。内野手の前で大きくバウンドする人工芝ヒット。よりも、名手の華麗なクラブさばきを…というわけです。

次に外野のグリーン部分は変則バウンドを避けるために直毛とカー毛をからませた自然芝型を採用しました。

そしてウォーニングゾーンも、他球場のようにタータンではなく人工芝を使用、これによってボールのバウンド率は低くなり、エンタイトル・ツーベースの可能性が少なくなりました。

しかしながら、人工芝の上では球足が速くなるという特性は生かし、スピードイヤーでスリリングな野球を楽しむことができます。

シオン材をひいた上に人工芝を張っていきます。ウォーニングゾーンなどオレンジの部分には少し固めのコンクリート補装になっています。

●汲水車と散水洗浄車

野球に雨はつきものです。昨日降った大雨で、グラウンドコンディション不良のため試合中止。というのもしばしば。それが人工芝になってスカッと解決しました。当日に降っていた雨でも雨量が少なければ汲水車が活躍。1,200㎡のタンク容量で水をグングン吸っていきます。また、人工芝の掃除はこれにおまかせ、という散水洗浄車も登場しました。